

へをこせて侍りければ、いと心うきことかなと、いひ遣はしたりける返事に、
紀の國の名草のはまは君なれやことのいふかひありと聞つる

〔倭訓栞前編七〕きい 紀伊はもと木國と書たるを、和銅年間に好字を撰み、二字を用ゐさせられ
しよりかく書也、伊は紀の音の響なり、

〔古事記傳〕木國、名義此字の如し、略中 書紀に、素戔嗚尊帥其子五十猛神、降到於新羅國云々、初五

十猛神天降之時、多將樹種而下、然不殖韓地、盡以持歸、遂始自筑紫、凡大八洲國之内、莫不播殖而成

青山焉、所以稱五十猛神、爲有功之神、即紀伊國所在大神是也、略中 さて右の如く木種を分播たま

ふ神の坐ス故に、木國とは名けしなり、

〔紀伊續風土記提一〕總論

本國の地は即上世大八洲國の内、大日本豊秋津洲の最南の一區域にして、舊其大名を東の方を
熊野國といひしを、後熊野を併せて、木國を以て總名とす、木國は古事記神世に、大穴牟遲神の事
を書して、速遣於木國之大屋毘古神御所とある、木國なり、木を以て國號とせし由は、五十猛命二
妹とともに、素盞鳴尊に従ひ天降り給ひし時、樹種を大八洲國に播殖し給ふ、當國は其三神鎮坐
ありし地なれば、樹木の暢茂せし事、他の國よりも殊に勝れたれば、木國とは名づけしなり、又熊
野の名も山林鬱茂の義にして、五十猛命の父神櫛御氣野命素盞鳴尊の一名なりの鎮まり坐せる地なる
より其名起れり、略註 木國の名と其義の本づく所は一なり、木は其物を以て名づけ、熊野は形狀
につきて呼ぶなり、略中 美材の出る事、今に至りても、他の國に勝れたれば、木の國と名づけし、誠
に稱へりといふべし、元明天皇和銅五年、文字を紀伊國と改めらる、故に日本書紀神代卷以下、當
國の名を皆紀伊國と書す、神代卷に伊弉冉尊崩御の事を書して、葬於紀伊國熊野有馬村焉とあ
る、此本國の事の史に見はる、始なり、